

日本安全教育学会 第14回浦安大会

The Japanese Association of Safety Education

プログラム・予稿集



主 催 ● 日本安全教育学会

主 管 ● 日本安全教育学会 第14回浦安大会 実行委員会

後 援 ● 千葉県教育委員会、浦安市教育委員会、全国学校安全教育研究会
独立行政法人 日本スポーツ振興センター、社団法人 日本学校歯科医会

期 日 ● 2013年 9月7日(土)・8日(日)

会 場 ● 明海大学 浦安キャンパス 2012講義室
(千葉県浦安市明海1丁目)

日本安全教育学会 第14回浦安大会

The Japanese Association of Safety Education

プログラム・予稿集

総合テーマ

「学校における安全教育と安全管理の協調を探る」

主 催 ● 日本安全教育学会

主 管 ● 日本安全教育学会 第14回浦安大会 実行委員会

後 援 ● 千葉県教育委員会、浦安市教育委員会、全国学校安全教育研究会
独立行政法人 日本スポーツ振興センター、社団法人 日本学校歯科医会

期 日 ● 2013年 9月7日(土)・8日(日)

会 場 ● 明海大学 浦安キャンパス 2012講義室
(千葉県浦安市明海1丁目)

INDEX

理事長挨拶	1
年次学会長挨拶	2
日本安全教育学会開催歴	3
会場アクセス図	4
会場案内図	5
開催概要	6
大会参加要領	7
日 程 表	8
プログラム	9
予 稿	
年次学会長講演	13
シンポジウム	17
一般口演	25
協賛一覧	72

日本安全教育学会 第14回浦安大会

ご参加の皆様へ



日本安全教育学会

理事長 **渡邊 正樹** 東京学芸大学

このたびは日本安全教育学会第14回浦安大会へご参加いただき、ありがとうございます。
本学会は、我が国の安全教育の研究と実践を推進・充実することを目指して設立され、今年で14年目を迎えました。毎年開催されます年次学会は、研究者、実践者らが交流し、研鑽し合う場として、発展して参りました。

さて第14回浦安大会は、明海大学浦安キャンパスにて安井利一明海大学学長を学会長に、「学校における安全教育と安全管理の協調を探る」をテーマに開催されます。ご存じのように安井先生は、学長という要職のかたわら、口腔衛生学やスポーツ歯学などのご専門領域でご活躍されることはもちろん、口腔外傷予防等のご研究、ご指導により安全教育学へ大きく貢献されていらっしゃいます。

学会1日目には、安井先生による年次学会長講演「口腔外傷予防からみた安全教育と安全管理の協調」とともに、一般口演が行われます。2日目には「児童生徒の学校安全を医学的に再考する」をテーマにしたシンポジウムが行われます。ここでの数々のご報告は、今後の安全教育における研究・実践の発展に大きく寄与するものです。

東日本大震災以降、防災・減災を中心として安全教育に対する注目が高まってきました。もちろん、従前安全教育は、防犯を含む生活安全や交通安全なども含め、非常に広い領域を扱ってきました。また広義の安全教育としては、安全管理の役割を無視することはできません。このような中、第14回浦安大会では、改めて安全教育、安全管理を大局的な視野から見直すよい機会となると思われます。

本学会も今後ますます発展していくことが期待されます。非会員の方で年次学会にご参加された皆様には、ぜひ本学会へご入会いただき、来年東北工業大学で開催されます第15回大会へもご参加くださるようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、本大会の開催に当たってご尽力を賜りましたシンポジウムの講師の方々、ご後援いただいた関係機関の皆様、そして安井利一先生、実行委員長の松本勝先生および実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

ご 挨拶



日本安全教育学会 第14回浦安大会

年次学会長 **安井 利一** 明海大学学長

日本教育安全学会第14回浦安大会を開催するに当たりご挨拶を申し上げます。

本学会年次大会の開催にあたりましては、日本安全教育学会理事長の渡邊正樹先生、学会事務局担当の中馬充子先生並びに多くの理事等の先生にお力添えをいただきましたことに改めて感謝の意を表します。本学会は平成11年に私の学校保健安全領域の恩師であります初代理事長吉田瑩一郎先生によって設立され、その後も、公私にわたりお世話になっております戸田芳雄前理事長そして渡邊正樹現理事長と繋がれ現在に至っております。私は設立当時から学会員として在籍いたしておりましたが、学務の都合でなかなか思うような学会活動ができずに忸怩たる思いをいたしておりました。2年前に日本スポーツ振興センターでの会議で渡邊理事長にお会いした際に、年次大会の開催を依頼され、何とかお応えしなくてはとの思いで引き受けさせていただきました。しかし、我が国の安全教育に関する課題は広く深く、さらには社会の変化が激しくもあり、何をテーマにして年次大会を開催するのが適切であろうかと思悩んでおりました。渡邊理事長も「安全は私たちの生活における最も重要な基盤であり、また権利でもあります。しかし自然災害、犯罪被害、交通事故、その他日常生活での事故災害など、多くの課題が山積しております。その中で本学会が果たすべき役割は極めて重大であると考えます。」と述べておられます。最終的には、このような時代は基本に返ることが重要なのではないかとの思いから、総合テーマを「学校における安全教育と安全管理の協調を探る」とさせていただきました。我が国の次代を担う子ども達を適切な安全教育と安全管理の協調の中で自立性・自律性のある国民に成長させることが永続的な国家の安全に繋がるのではないかと信じております。私が長くかかわってきた健康問題における保健教育と保健管理もバランスが必要です。どちらかというとな安易な管理的手法に流れやすいのではありますが、教育による基本的基盤形成のない管理的手法は国民を他力本願にしやすいというリスクがついて回る気がします。安全は、個人、友人・家族、地域、国と広げなければならないが故に、特に、安全教育の重要性を認識しなければならない領域であると思います。今回は、学校安全と学校保健との融合領域として「児童生徒の学校安全を医学的に再考する」というテーマのシンポジウムを企画しました。教育と管理のバランスと特徴を複合的に再考する機会になればと思い、我が国を代表する先生にシンポジストをお願いしました。皆様の明日からの活動のお役にたてば望外の喜びです。そして、最後になりますが、多くの演題を頂戴しましたこと、そして多くの後援並びに協賛をいただきましたことに対し厚く御礼を申し上げます。

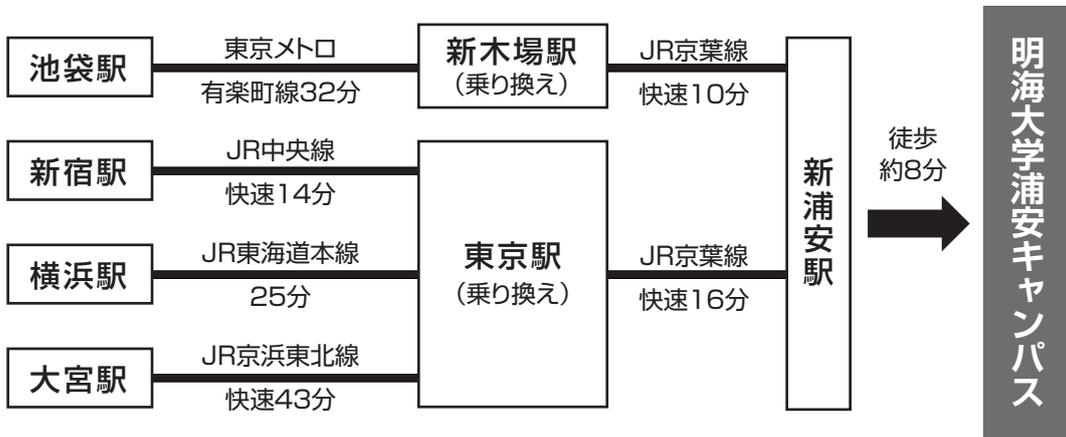
日本安全教育学会 開 催 歴

回	日 時	場 所	年次学会長・実行委員長
第1回	平成12年7月8日	日本体育大学 (横浜市)	大坪 敏郎 (日本体育大学)
第2回	平成13年7月14日	日本体育大学 (横浜市)	大坪 敏郎 (日本体育大学)
第3回	平成14年9月7日	日本体育大学 (横浜市)	大坪 敏郎 (日本体育大学)
第4回	平成15年9月6日	安田女子大学 (広島市)	折本 浩一 (安田女子大学)
第5回	平成16年10月2日	横浜市西公会堂 (横浜市)	矢崎 孝彦 (藤沢西高校)
第6回	平成17年10月29日	沖縄市民会館 (沖縄市)	嘉手苺喜郎 (宜野湾市教育委員会教育長)
第7回	平成18年10月28・29日	西南学院大学 (福岡市)	中馬 充子 (西南学院大学)
第8回	平成19年9月20・21日	関西福祉科学大学 (柏原市)	南 哲 (関西福祉科学大学)
第9回	平成20年9月13・14日	玉川大学 (町田市)	萩須 隆雄 (玉川大学)
第10回	平成21年9月19・20日	東京学芸大学 (小金井市)	渡邊 正樹 (東京学芸大学)
第11回	平成22年9月18・19日	東北大学 (仙台市)	源栄 正人 (東北大学)
第12回	平成23年9月23・24日	上越教育大学 (上越市)	藤岡 達也 (上越教育大学)
第13回	平成24年11月2・3日	大阪教育大学 学校危機メンタルサポートセンター (池田市)	藤田 大輔 (大阪教育大学)
第14回	平成25年9月7・8日	明海大学 (浦安市)	安井 利一 (明海大学)

会場アクセス図

会場：明海大学浦安キャンパス

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目 TEL047-355-5111 (代表)

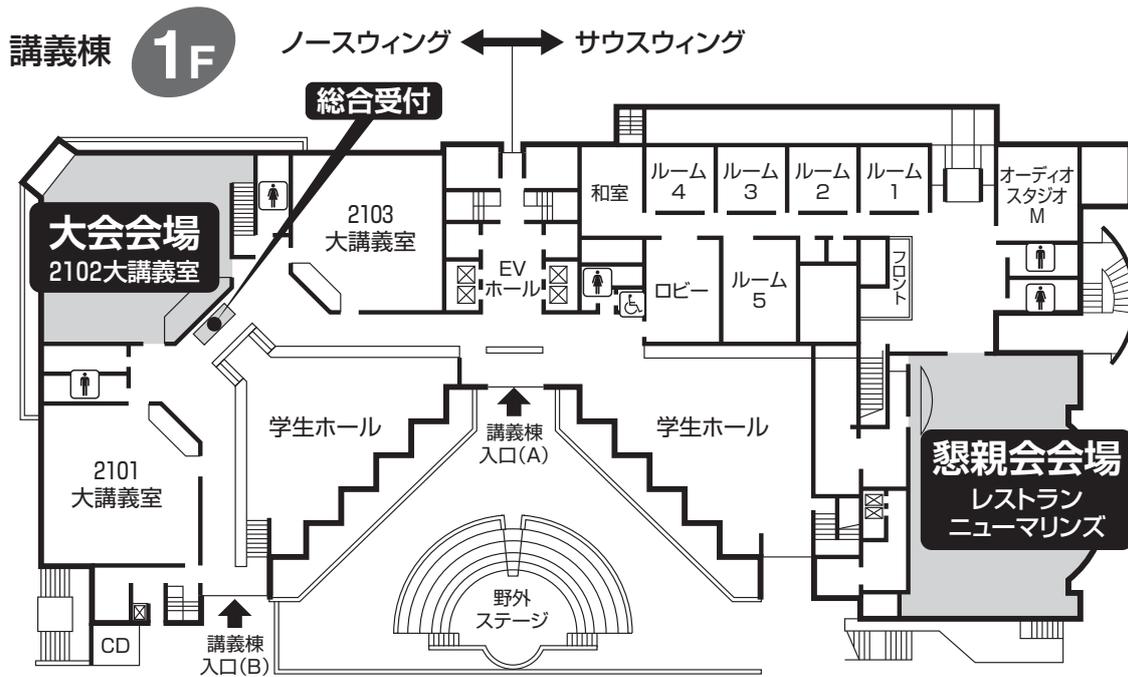


会場へのアクセス

- ① JR京葉線・武蔵野線「新浦安駅」下車 徒歩約8分
- ② 東京メトロ東西線「浦安駅」下車
「浦安駅入口」より東京ベイシティバス③⑩⑪系統に乗車(約15分) 「明海大学前」下車
詳しくは、明海大学浦安キャンパスホームページ 写真で見るアクセスルート(浦安キャンパス)
<http://www.meikai.ac.jp/access/photo.html> をご覧ください。

会場案内図

明海大学浦安キャンパス



日本安全教育学会 第14回浦安大会

開催概要

総合テーマ

「学校における安全教育と安全管理の協調を探る」

期 日：平成25年9月7日(土)～8日(日)

会 場：明海大学浦安キャンパス(千葉県浦安市明海1丁目)
2102講義室

年次学会長：安井 利一(明海大学学長)

実行委員長：松本 勝(明海大学歯学部社会健康科学講座)

主 催：日本安全教育学会

後 援：千葉県教育委員会、浦安市教育委員会、全国学校安全教育研究会
独立行政法人 日本スポーツ振興センター
社団法人 日本学校歯科医会 (順不同)

日本安全教育学会ホームページ

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/karima-lab/JASE/JASE.html>

日本安全教育学会第14回浦安大会ホームページ

http://www.dent.meikai.ac.jp/~jase14th_urayasu/index.html

開催趣旨

日本安全教育学会は、学校、子ども、高齢者及びその他の安全教育に関する調査研究及び普及啓発、並びに安全教育学領域の研究の発展に資することを目的として設立された学術的団体であります。本会はそのために平成11年の学会創立以降、①年次学会(日本安全教育学会)の開催、②機関誌「安全教育学研究」など刊行、③研究集会の開催、④安全教育に関する調査研究、⑤安全教育の関する広報活動等の事業を行っています。

その中で、全国年次学会は年1回の開催で、学会活動の中心的位置付けとなり、全国より大学関係者、関連企業などに加え、保健主事や養護教諭などが多数参画し、多方面、他分野にまたがるテーマについて活発なディスカッションがなされています。

日本安全教育学会第14回浦安大会の実行委員会では、安全教育学の進歩に必要な基礎的ならびに臨床的な研究発表の場である一般発表演題の他に、特別講演、教育公演、シンポジウムを開催し、安全教育を行う際に有用な関連機材を中心にした企業商品展示を併設する予定となっております。

本学会会員以外の先生方にも、日頃の安全教育を行う際に感じる多くの疑問、問題等が解決される情報が多く含まれ、最新の情報にも触れられるものと思います。

参加者の皆様にとって意義深い大会となるよう、関係各位の御協力と多数の参加を心よりお願い申し上げます。

大会参加要領

参加者へのご案内とお願い

- 9月7日は午後12時から、8日は午前8時30分から講義棟1階 2012講義室前にて受付を開始します。
- 事前登録された方は受付で、参加受付を済まして下さい。
- 当日受付される方は当日会費を受付にお支払いの上、参加証と抄録集をお受け取り下さい。
- 参加証には所属、氏名を記入の上、学会期間中必ず着用してください。参加証を着用していない方の入場はお断りいたします。
- 入会希望の方は入会金1,000円、年会費5,000円を納めてください。
- クロークは用意しておりませんので荷物は自身で管理をお願いします。
- 学会係員は「スタッフ」と書いた名札を付けておりますので、何かありましたらお申し出ください。

一般口演の方へ

- 発表者、共同研究者ともに会員に限りますので、未入会の方は入会手続きを行ってください。
- 発表方法はPCのみで、スクリーンは1面です。
- 第1日目の発表者は、9月7日13時まで、第2日目の発表者は、9月7日15時までに会場のPC受付までお越しの上、動作確認をお願いいたします。
- PCは学会事務局にて準備いたしますので持ち込みは結構です。ファイルは、USBメモリなどのメディアでご用意下さい。
- PCには、Windows 7およびMicrosoft Office PowerPoint 2010がインストールされています。
- 動画（アニメーションは含まない）やサウンドを使用する場合は、その旨をPC受付時にお知らせください。
- PC操作は発表者自身で行っていただきます。
- 口演時間は10分、質疑応答は5分です。座長の指示のもと時間を厳守してください。

座長の先生へ

- 座長の先生は大会受付で座長登録をお済ませ下さい。
- セッション開始予定の10分前までに会場内の「次座長席」にご着席ください。
- 各セッションの進行はお任せいたしますが、担当時間内に終了するようお願い致します。

日程表

第1日目 9月7日(土)

第2日目 9月8日(日)

8:30		8:30～	参加者受付	1F ホール
9:00		9:00～9:45	一般口演Ⅱ-① 座長：矢萩 恵一	2102 講義室
9:30～	理事会受付	9:50～10:35	一般口演Ⅱ-② 座長：小川 和久	2102 講義室
10:00	10:00～11:00 常任理事会	10:40～11:25	一般口演Ⅱ-③ 座長：矢崎 良明	2102 講義室
11:00	11:00～12:00 理事会	11:30～12:00	一般口演Ⅱ-④ 座長：藤田 大輔	2102 講義室
12:00	12:00～13:00 参加者受付 昼食・休憩	12:00～13:00	昼食・休憩	1F ホール
13:00	13:00～13:10 学会理事長・年次学会長 挨拶	13:00～13:30	総会	2102 講義室
	13:10～13:55 年次学会長講演 口腔外傷予防から見た安全教育と 安全管理の協調 ～特にスポーツ外傷との関連から～ 座長：渡邊 正樹 演者：安井 利一	13:30～14:00	研究奨励賞受賞者講演	2102 講義室
14:00	14:00～14:45 一般口演Ⅰ-① 座長：竹下 玲	14:10～16:20	シンポジウム 児童生徒の学校安全を医学的に再考する 座長：戸田 芳雄 シンポジスト：川原 貴 奥脇 透 小野 卓史	2102 講義室
15:00	14:55～15:40 一般口演Ⅰ-② 座長：西牧 謙吾	16:20～16:30	閉会挨拶	2102 講義室
16:00	15:45～16:30 一般口演Ⅰ-③ 座長：西岡 伸紀			
17:00	16:35～17:20 一般口演Ⅰ-④ 座長：刈間 理介			
	17:30～19:30 懇親会			ニューマリンズ

プログラム 9月7日(土)

9:30～	理事会受付
10:00～11:00	常任理事会
11:00～12:00	理事会
12:00～13:00	参加者受付
13:00～13:10	学会理事長・年次学会長 挨拶
	理事長：渡邊 正樹(東京学芸大学)
	年次学会長：安井 利一(明海大学学長)

13:10～13:55 年次学会長講演

座長：渡邊 正樹(東京学芸大学)

口腔外傷予防から見た安全教育と安全管理の協調 ～特にスポーツ外傷との関連から～

安井 利一 明海大学学長

13:55～14:00 休 憩

14:00～14:45 一般演題 I-①

座長：竹下 玲(明海大学)

I-01 房総の津波と日本古典

外山日出男 千葉科学大学非常勤講師・城西国際大学大学院博士後期課程

I-02 秋田県の歴史地震の教訓を防災教育教材にする試みと啓発の実践

水田 敏彦 秋田大学 地域創生センター

I-03 豪雨災害を対象とした学校の安全管理について

中野 晋 徳島大学環境防災研究センター

14:45～14:55 休 憩

14:55～15:40 一般演題 I-②

座長：西牧 謙吾(国立障害者リハビリテーションセンター病院)

I-04 発達障がいを持つ子への防災教育(1) —調査結果から—

村上 佳司 天理大学

I-05 発達障がいを持つ子への防災教育(2) —教育の課題と方法—

堀 清和 太成学院大学

I-06 徳島における児童福祉施設の地震・津波危険度と防災管理

鳥庭 康代 徳島大学環境防災研究センター

15:40～15:45 休 憩

15:45～16:30 **一般演題 I-③**

座長：西岡 伸紀(兵庫教育大学)

I-07 防災文化の醸成 —兵庫県立淡路高等学校における3.11津浪の対応—

森 康成 徳島大学大学院先端科学技術教育部

I-08 楽しく学ぶ防災・減災教室 —ゲームシミュレーションによる防災教育—

田中 勢子 わしん倶楽部

I-09 二次災害としての感染症に重点をおいた災害教育：避難所シミュレーション

坪内 暁子 順天堂大学大学院医学研究科

16:30～16:35 休 憩

16:35～17:20 **一般演題 I-④**

座長：刈間 理介(東京大学)

I-10 石巻市における『復興マップづくり』プログラム —平成24年度の活動報告—

徳山英理子 東北大学災害科学国際研究所

I-11 石巻市における『復興マップづくり』プログラム —平成25年度の実践—

桜井 愛子 神戸大学大学院

I-12 医療および福祉施設の地理的立地条件から見た自然災害に対する危険度評価

後藤 健介 長崎大学熱帯医学研究所

17:20～17:30 移動・休憩

17:30～19:30 懇 親 会

会場：ニューマリンス

一般口演

I-01 房総の津波と日本古典

○外山 日出男

千葉科学大学非常勤講師・城西国際大学大学院博士後期課程

1. はじめに

2011年3月11日の東日本大震災は、千年に一度の大災害であった。筆者は千葉県銚子市にある県立銚子高等学校に勤務していた。死者14名を出した旭市に近接している。被災生徒と共に考えたのは、このような体験は日本の古典の中にも書かれているはずであり、先人達がこれまで種々様々な災害をどのように受け止め、どう対処したかを知ることが、危機管理にもつながり、これからはますます求められる防災教育・安全教育にむすびつくのではないかと感じ、以下に私見を述べてみたい。

2. 房総の津波と地震

江戸時代、九十九里浜でも大きな津波が来襲した。

記録に残っているものでは、慶長9年(1604年)12月を最初として、安政2年(1855年)10月まで約12回を数える。房総沖を震源域とする歴史的巨大地震は、慶長9年・延宝5年(1677年)・元禄16年(1703年)がある。

特に、元禄16年の地震は、旧暦11月23日の夜間に発生したマグニチュード8.2の巨大地震で、相模・伊豆・武蔵・安房・上総に、波の高さ8メートルの大津波が襲来したと伝えられている。

(増訂大日本地震史料)

九十九里浜には、当時の犠牲者を供養した「津波塚」が多くある。山武郡の旧成東町には木戸川という川があるが、ここを北限として、九十九里浜に沿って一宮川流域まで約18基の津波塚がある。また、茂原市の鷲山寺門前の供養塔には、2,154名の犠牲者が記されている。

当時の被害状況を古文書から調べた郷土史家の先学故伊藤一男(千葉県郷土史研究連絡協議会)によると、津波による水死者は、約5,200人を数え、従来よりもはるかに多いことが判明してきている。「上総村高帳」によると、全村民に占める水死者の比率は、伊藤一男による計算では平均で32.20%であり、中でも孝治村は、72.38%、古所村は60.04%、中里村は59.32%という惨

憺たる状況であった。

旧白子町の池上家史料によれば、地震の発生は、旧暦11月23日の子の刻(午前零時から2時)で、津波の襲来は、丑の刻(午前2時から4時)と言われている。史料中には「海辺は潮大に早る。さて、丑の刻ばかりに大山の如くなる潮、上総九十九里の浜に打ちかかる。海際より岡へ一里ばかり打ちかけ、潮流れゆくこと一里半ばかり」と、あつて数千軒の家、数万の僧俗男女、牛馬鶏犬に至るまで溺死と記されている。

3. 大震災と日本古典文学

大震災を記録した歴史書としての文献は、代表的なものには「日本書紀」がある。たとえば、日本書紀の「地震」の記事は允恭5年7月を初出として、ざっと数えて25箇所ほど掲載されている。その内、天武紀に19箇所出てきており突出している。天智紀までは余程の大地震か、不吉の予兆として書かれていることが多いが、天武朝では朝廷内の記録がしっかり残っているために、ある程度の大きさの地震が発生するたびに書かれている。

「是の月に、筑紫國大、大きに地動る。地裂くること廣さ二丈、長さ三千余丈。百姓の舎屋、村毎に多く仆れ壞れたり。」

(日本古典文学大系『日本書紀下』巻第29巻 天武天皇下 1965年 岩波書店 p.432)

さらに平家物語にも大地震についての記述がある。元暦2年(1185年)7月9日、午の刻、京に大地震があったと記録されている。当時、権大納言正二位であった中山忠親はその天変を五十年来経験しなかつた激震といい、その様子を「山塊記」という日記に書いている。ついに対策として改元が行われ、文治元年となる。文治元年の大地震である。

余震が同年9月29日まで毎日のように起こり、院御所の破壊が著しく、寝殿が使えなくなったという。

対策として、以下のようなことが行われている。

①8月19日に、院御所(六条北、西洞院西のいわゆる六条院)において仁和寺法親王の孔雀教法の修行

②8月28日には、東大寺の大仏開眼供養

4. 危機管理と日本古典文学

現代の危機管理システムは、まさにシステムとして、総合的・組織的に、あるいは意図的・計画的に作成されたものであって、これと日本の古典時代を比較するのは問題設定の仕方が違う。筆者はそのような比較を行うことを意図しているのではなく、古典の時代に、おそらくはなすすべもなかったであろう人々を、日本古典がどうやってその様子を描いているかを考えたいのである。そして、その跡をたどることでその時代を生きていた人々がどうやって危機を乗り越えたかを探ろうとしている。

当然これらの古典が書かれた時代には、自然災害などというものは、ひたすら人間の智慧をはるかに超えたものであったろうし、ひたすら災害の前でかしこまっているしかなかったであろう。怖れと祈り。鎮魂と慰撫。大自然の猛威の前にひたすら恭順の意を示し、たたずんでいるしかなかった祖霊たちの姿が、伝承文学あるいは芸能として、神事として伝わっている。これらのことを明らかにすることによって、危機管理と日本古典がつながるので

ある。房総ばかりではない。遠く八重山諸島でも、幾たびかの悲惨な大津波に襲われている。その度に、民衆は祈り、被害にあった人々を祀り、自然を慰撫してきた。

日本の古典時代には、防災対策とか、防災推進計画とか、マニュアルとか、避難所対策とかは、まったくなされていなかったであろう。

今回の大震災の時にも、高台にあったのは、一般住宅のほかには神社・寺院である。むろん低地にあった神社・寺院もあって、それらの建物はかなりの被害にあっている。しかし、高台にあった場合は被害をまぬかれた。しかも、学校と一緒に、避難者を留め置くことが可能だった。もっとも、学校も神社・寺院もそれらの建物自体が破壊されてしまったら、話にはならないが。

方丈記等の日本古典の書かれた時代でも、多くの神社・寺院は避難所としての役目を果たしたであろうし、少なくとも司令塔の立場を持っていたであろうと思われる。そのような文化的な価値のある場所が、中核となるのである。このことは、字を読み書きすることができなかった時代の庶民の生き方を見ても首肯できることである。このような記録を丹念に辿っていくこともまたささやかな価値ある試みであるのかもしれない。

I-02 秋田県の歴史地震の教訓を防災教育教材にする試みと啓発の実践

○水田 敏彦

秋田大学 地域創生センター

1. はじめに

秋田県では過去に多くの被害地震が発生している。明治以降を見ても、内陸では1896年(明治29年)陸羽地震と1914年(大正3年)秋田仙北地震がある。被災の中心の地名から陸羽地震は『六郷地震』、秋田仙北地震は『強首(こわくび)地震』とも呼ばれている。2011年東北地方太平洋沖地震の被害から、このような歴史地震がもたらした未曾有の被害を忘れることなく、多くの反省や教訓を生かし、防災教育を推進することが地域の防災にとって重要であることを再認識した。筆者は、陸羽地震、秋田仙北地震をとりあげ文献調査を進めており(例えば1)、2)、当時の地方新聞記事、郷土史料、行政史料等からの新たな情報の発掘に努めている。本報では、1896年陸羽地震と1914年秋田仙北地震を事例として、これまでに収集した地域史料の整理を行い、これらをまとめて人的被害の発生要因を明らかにし、教訓をもとにした子ども向け防災教育教材(主に絵本)にする試みと啓発の実践を紹介する。

2. 対象とした陸羽地震と秋田仙北地震の概要

陸羽地震は1896年8月31日17時06分、横手盆地東縁断層帯の北部とその東方の真昼山地東縁断層帯の一部



図1 陸羽地震および秋田仙北地震の住家全潰率分布

で発生したM7.2の内陸地震であり、死者209名、負傷者779名、住家全潰5,792棟、山崩れ9,899箇所等となっている。また、2ヶ月前の1896年6月15日には明治三陸地震津波が発生している。この地域では秋田仙北地震も発生し、発震時1914年3月15日4時59分、M7.1、死者94名、負傷者324名、住家全潰640棟の被害が生じている。図1に既往の研究^{1)、2)}により推定されている住家全潰率の分布を示す。死者の大半は全潰率10%以上の町村に広がっており、強い震動によって家屋が全潰し、壊れた建物の下敷きによる犠牲者であったと思われる。

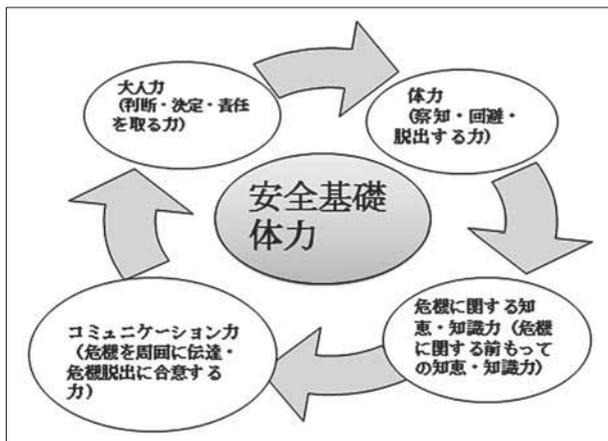
3. 地震災害に関する地域史料

住民に伝えるべき知見・教訓として、人的被害の発生要因は重要であると考えられる。しかし陸羽地震と秋田仙北地震の人的被害については、既往の調査報告書には被害統計があるのみで、被害の発生状況や原因については触れられていない。利用できる地域史料として地震後に纏められた各種の郷土史料、当時の地方新聞などがあり、より詳細な被害状況を知ることができる。人的被害が示されている地域史料として、1896年陸羽地震に関しては「秋田震災誌」がある。死者発生の際の惨状について、犠牲者一人一人について被災の状況が仔細に記されている「惨話」がある。また、1914年秋田仙北地震に関しては、秋田県公文書館に「大正三年震災関係書類(土木課)」が収蔵されている。警察部が提出した「死亡者調査表」があり、犠牲者94名全員の住所、氏名、年齢・性別が記されている。

4. 防災教育絵本の作成と啓発の実践

教材は幼児～小学校低学年を対象として絵本を作成した。陸羽地震の事例を次に示す。

まず、子どもに恐怖心を抱かせることがないように考慮し、地震時の身の守り方を教える絵本を作成した。次に、文献調査の結果を踏まえ災害の特徴を探ってみた。死者数205名のうち194名の人的被害の発生状況が明らかにされ、家屋倒潰による犠牲者が全体の91%であった。



参考：「犯罪からの子どもの安全を科学する」
（ミネルヴァ書房）



講師としてお話しする静岡県防犯まちづくりアドバイザー
（平成25年7月）

静岡県は、平成15年に「防犯まちづくり行動計画」を策定し施策に取り組んできた。この間、県内の刑法犯認知件数は8年連続で減少し、県民の犯罪遭遇不安も大幅に低下した。行動計画は、県民調査（県民の体感治安、安全安心まちづくりに求められるものなど）をもとに作られ、平成23年、平成25年に、さらに持続的な取り組みにするため、「静岡県防犯まちづくり有識者懇談会」の提言、パブリックコメントをへて、行動計画を策定。引き続き取組を進めている。これらの施策の一つが、「防犯まちづくりアドバイザー制度」である。防犯まちづくりアドバイザーは、子ども・高齢者・女性への犯罪防止のため防犯教室の先生として活躍しているが、しかし今まではある一部の地域を除いて、教育委員会と連携し学校のカリキュラムのなかで授業が行われることは少なかった。今年度より、くらし交通安全課と教育委員会が協力し、歩く、見る、きっぱり断る、叫ぶ、鳴らす、

走るなどの行動がとっさにできるよう体験型防犯教室が保護者も巻き込みながら各学校で開かれ始めている。

弊所は平成15年より静岡県のこの取り組みに参画しているが、防犯ボランティアのすそ野の広がり、専門性をもち広域的活動のできる人材の育成・活躍できる場所の確保、さらにそれを支える自治体、NPOの発展は目を見張るものがある。静岡県の犯罪防止への熱意と、安全安心まちづくりに携わる人づくりにかける情熱、そのために具体的に計画を進めていく確実な足取りから学ぶことは多い。

もちろん自分で自分を守る力が弱いうちは周囲の見守りは非常に大切である。見守りつつ、教育を行う継続な取り組みによって、子どもの安全は確保されるであろうし、その両翼は、地域との連携なしには成り立たない。子どもを守る、という目標に向かって私たちができることはまだまだ未知数にある。

日本安全教育学会 第14回浦安大会

協賛一覧

医歯薬出版株式会社

教育出版株式会社

クリエイティブ工房 PORO

株式会社 光文書院

株式会社細村 埼玉 OA センター

株式会社 少年写真新聞社

スリーエムヘルスケア株式会社

一般社団法人 日本損害保険協会

株式会社 大修館書店

ネオ製薬工業株式会社

株式会社 モリタ

ライオン株式会社

(アイウエオ順)

日本安全教育学会 第14回浦安大会

プログラム・予稿集

発行日：2013年8月

発行者：安井 利一

事務局：日本安全教育学会 第14回浦安大会 実行委員会

明海大学歯学部社会健康科学講座

〒350-0283 埼玉県坂戸市けやき台1-1

TEL：049-279-2786 FAX：049-286-2343

e-mail：jase14th@dent.meikai.ac.jp

出版： 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025

